

# 分科会 9

## オープンダイアログ ～7原則のレクチャーと対話実践のワーク～

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン (ODNJP)

石原孝二 (東京大学)

福井里江 (東京学芸大学)

森田展彰 (筑波大学)

岩波孝穂 (順天堂大学)

吉澤美樹 (訪問看護ステーションふあん)

村井美和子 (みどりの杜クリニック)

オープンダイアログは、フィンランド西ラップランド地方で開発された地域精神医療のアプローチです。オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン (ODNJP) は、2018年3月、日本語版のガイドライン、「オープンダイアログ 対話実践のガイドライン」を作成しました。オープンダイアログは、精神医療の「サービス供給 システム」であり、また「対話の実践」の技法でもあり、さらにはその背景にある「世界観」を意味するとされますが、本ガイドラインは、このうちの「対話の実践」に関するガイドラインとして作成されたものです。本分科会は、このガイドラインにもとづいて、ワークを交えながらオープンダイアログの思想と原則を紹介していくものとして企画されました。事前の申し込みで148名、満席になりました。

当日の分科会では、まず、参加者に2人1組のペアになっていただき、「リスニング・ワーク」を行い、「今日の分科会に何を期待していますか」ということをテーマに話をさせていただきました。その後、7つの原則についてスライドを使いながらオープンダイアログの7つの原則と「対話実践の12の基本要素」について、概略を説明していきました。7つの原則は、ODの原則として長く使われてきたものであり、12の基本要素は、アメリカの実践家・研究者によってつくられたものをもとにしています。概略の説明は、演者全員で、原則や基本要素についての思いを対話する形で進められました。

原則と基本要素の説明のあとは、4人1組になっていただき、「リフレクティング・ワーク」を行っていただきました。テーマは、ODの原則および基本要素の説明を受けて感じたことで、自由に話をさせていただきました。

リスニング・ワークとリフレクティング・ワークの後には、それぞれ、全体でシェアをする時間を持ちました。オープンダイアログに対して大きな期待が寄せられていることが感じられましたし、また、リスニング・ワークの後のシェアとリフレクティング・ワークのシェアでは、コメントの内容に変化が感じられました。

短い時間で、ワークショップとしては、参加者の数も多かったのですが、一体感のあるワークショップができたのではないかと考えています。参加して頂いた皆さんには、改めて感謝申し上げたいと思います。